



平成 23 年 9 月 15 日
岡 山 大 学

日本口腔検査学会で優秀ポスター賞を受賞 — 工藤値英子 助教

概要： 8月27-28日に開催された第4回日本口腔検査学会総会・学術大会において、岡山大学病院 歯周科の工藤値英子助教が、「血液疾患患者の移植検討期における歯周病感染度検査の実用化のための課題」をポスター発表して受賞した。岡山大学病院での血液腫瘍（白血病等）治療時に口腔の細菌感染が問題となるので、事前に歯科治療時を行う際に歯周病細菌の感染状況の検査を応用している。これらの患者の約60%には対応できているが、残り40%の検査が遅れ気味であるので、その検査法の改善策と検査室への導入が求められていることを報告した。

<内容>

1. 対象患者： 2004年9月～2011年2月に岡山大学病院血液・腫瘍内科から歯周科に、移植検討期における口腔内感染巣の有無の精査および加療を目的に紹介された血液疾患患者146名(男性:88名, 50.2±16.2歳;女性:58名, 49.1±13.0歳)
2. 血液疾患診断名および造血幹細胞移植に関する調査： 対象患者における血液疾患名と施行した造血幹細胞移植情報を、血液・腫瘍内科医によりカルテに記載された診断と治療経過をもとに調査
3. 口腔内検査と歯周病の血液検査： 通常の歯周精密組織検査およびエックス線検査線検査所見、さらには以前に報告した歯周病の血液検査結果から、評価・診断
4. 歯科治療の緊急性： 対象患者のうち移植施行患者(101名)における歯科治療可能期間は、1-15日間は25名(25.3%)、16-30日間は13名(13.1%)であり、移植施行患者の38.4%に対して、血液・腫瘍内科から紹介後1ヵ月以内に口腔内検査および感染源除去を完了する必要があった
5. 歯周病の血液検査： 現在の検査報告ペースでは移植検討患者の約40%に対して、必要な口腔感染管理体制に追いついていない

<今後の取り組み>

現在進行中の歯周病原細菌の血液検査を通常の臨床検査レベルの速度へ改善する研究(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 B(歯周病原細菌の IgG 抗体価検査の自動化・高速化に関する研究)を進展させて、数時間で結果を出すことができる検査を開発中である。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
歯周病態学分野・教授 高柴 正悟
(電話番号)086-235-6675 (FAX番号)086-235-6679